

第5回 生物多様性神戸プラン推進委員会（進捗管理） 議事録

1. 開催日時 平成30年3月8日（木） 10時00分～12時00分
2. 開催場所 神戸市役所3号館3階 環境局大会議室
3. 出席者 武田委員、花田委員、安井委員、山本委員、長岡委員、斉藤委員
4. 議題
別添 会議次第のとおり

5. 質疑

<議題①：平成29年度における生物多様性保全に係る事業の実施状況について>

【きせつの生きものさがしガイド・環境教育重点推進校園等について】

●花田委員

以下の質問の回答をお願いしたい。

- (ア) きせつの生きものさがしガイドの配布について（資料1の8ページ）、小学3年生全員に配布していることは素晴らしいが、これを基に児童が見つけた生きものの情報は、生きものマップ（同11ページ）に反映されているのか。
- (イ) こうべ給食畑の事業（資料1の10ページ）について詳細を教えてください。たとえば、子どもたちが自身で栽培した作物は残さないと言われているが、そうした取り組みに近いものなのか。
- (ウ) 総合教育センターで重点推進校園を15校園指定したということだが（資料2の10ページ）、来年度は指定校園の入れ替えをするのか。
- (エ) こうべ版GAP（資料3の7）と国際的なGAPとの関係性を教えてください。2020年の東京オリンピックに向けて、GAP認証を受けた農産物を使おうという動きがあり、国も補助金を出してGAP認証を推進しているところである。

●事務局

いただいた意見に回答する。

- (ア) 生きものさがしガイドの中で生きものマップの紹介も行っているが、小学生に生きものマップへの積極的な投稿までは求めている。学校周辺で身近に見られる生きものをまずは知っていただくという目的で配布している。生きものマップの投稿数の増加とは必ずしもリンクしていない。
- (イ) 関係課に別途確認する。
- (ウ) 入れ替えをすると聞いている。こちらからも何かしらアプローチしていきたい。
- (エ) 国際的な認証の前段階の取組みとして、こうべ版GAPを行っている。詳細と今後の展

開について関係課に別途確認する。

●長岡委員

以下の質問の回答をお願いしたい。

- (ア) きせつの生きものさがしガイド（資料1の8ページ）の配布の効果については調べているか。
- (イ) 出前授業（資料1の8ページ）を10数校で実施したということだが、全体では何校あるのか。今年度の12校のうち、昨年度から継続で申し込んだ学校はどれくらいか。出前授業の広がりを確認したい。
- (ウ) ファームビジット（資料2の1ページ）について、どのような場所に行かれているのか。神戸市内は体験する場が少なく、知る機会も少ないと思う。
- (エ) 重点推進校園（資料2の10ページ）の選定基準を教えてください。また、総合教育センターはどのようなサポートを行っているのか。今の若い教員は、自分自身に自然体験がないため環境学習に苦勞している。生きものさがしガイドのようなツールをもらっても、どのように使えば良いか分からない。そのような背景でどのようなサポートをしているのか。

●事務局

(ア) (イ) について。小学校数は164校。なかなか全ての学校を対象にはできない。前年度末に出前授業の紹介・募集をして、それに対する申し込みが今年度12校だった。7校は昨年度も申し込んでいるため、一度体験した学校には気に入っていただいている結果となっている。出前授業は、ほぼこちらにお任せ、というメニューだが、一步を踏み出せないでいる教員も多い。教員の多忙化問題もあり、学校へアプローチする機会を減らされている状況だが、うまく啓発をしていきたい。

●長岡委員

生きものさがしガイドにティーチングガイドを付け足してはどうか。こんな使い方がある、等のポイントを紹介できたら、生きものさがしガイドもより活かせる。

●事務局

来年度については、出前授業の講師のアドバイスもあり、児童ではなく、教員向けの生きものさがしガイドに基づく講習も同時募集している。

●安井委員

(エ) について。重点推進校だけでなくスーパーサイエンスハイスクールにも指定されている六甲アイランド高校もある。来年度から六甲アイランド高校生（希望者約10名）が授業の一環で5年間アサリに関する調査を行う予定である。

●事務局

(ウ) 関係課に別途確認する。

(エ) 選抜基準については、積極的な学校園が手を挙げたと聞いている。また、教育委員会

からは、金銭面の支援がある、と聞いている。テーマは生物多様性ばかりではない。当課もシンポジウム等でこうした取り組みを紹介していきたい。

●武田委員長

出前授業の講師はどのような方々か。

●事務局

兵庫・水辺ネットワークの幹事や市のビオトープ活用支援事業に携わっていた方、あわせて3名をお願いしている。

●武田委員長

講師をもう少し増やせたら、受入数も増やせるのではないか。

●花田委員

学校の教員にとって、出前授業の申込は敷居が高いかもしれない。生きものさがしガイドに加えて、教員向けのティーチングガイドや、子どもたちが書き込めるワークシートも配布すれば、より使いやすいものになるのではないか。学校に使ってもらう工夫を検討してほしい。

●事務局

たとえば、植物があるとき、学校の先生だけでは同定までは難しい。生きものさがしガイドでも見分けのポイントを載せているが、一度は実物を見てみないと、自信が持てないらしい。

●花田委員

六甲の植物園では、子ども向けの資料が置いてあり、その内容が良かった。参考にしてほしい。

●事務局

今後情報を収集して分かりやすいものを検討したい。

●長岡委員

生物を同定するのは難しいと思われる。ワークシートについては、たとえば、生態系のピラミッドの中で、ガイドに掲載された昆虫がどこに位置付けられるのかを載せるなど、少し広い視野で学ぶ、という内容でも良い。

【ヒアリへの対応について】

●花田委員

ヒアリに関する市民からの通報はどれくらいあったのか。

●事務局

一般の市民からの通報は500件程度。この中に、ヒアリの情報はなかった。市内では、港湾でしか発見されていない。不安に思われて通報した、という方が多かった。

●花田委員

生きものさがしガイドでも注意してほしいが、実物の大きさについての情報が非常に重要である。ヒアリが小さいということは、意外と知られていない。

●事務局

確かに初期の通報の中では、大きなアリが多かったらしい。大きさを2~8mmと示すだけではイメージが難しいらしい。作成中のヒアリ対策マニュアルでは、大きさのイメージも載せるようにしている。

●山本委員

尼崎で最初にヒア리를発見したのは、どのような方か。

●事務局

コンテナを開いて中身を取り出す作業員である。作業中に発見し、会社に通報したと聞いている。

●山本委員

発見した方とその会社は、一番評価されるべき。その方の機転のおかげでヒア리를水際で防げる可能性が残されたと言えるので、そのような方々のクローズアップをお願いしたい。

●事務局

風評が懸念されるため、企業や個人の情報は公表していない。風評被害が広がってしまうと、今後通報を控える動きが出る可能性がある。しかし、そのような現場で働いている方が見つけたからこそ、今のような状況にある、ということは周知していきたい。

●山本委員

決して専門家ではない、多くの一般市民も、こうした問題に興味を持ち、そのような目を持つことで、早期の防除を進めることや、新しく侵入してくる外来種の発見ができると思う。

【生物多様性条例について】

●武田委員長

希少野生動植物の採集禁止について、Aランク種全てを対象にすると、うっかりとってしまうこともあるので、種を絞ると良い。

また、土地所有者による保全について、希少種がいる場合どのように保全してもらうのか。

●事務局

希少野生動植物の選定については、現在検討しているところである。

土地所有者の保全については、努力義務であるため、見つかった希少種全てを保全することまでは求められない。条例上、希少種がいれば保全してください、と言える体制を整えている。

●斉藤委員

希少野生動植物をAランク種全てではなく、絞るべきとの意見もいただいているが、対象から外れた種については、採取しても良い、ということにならないか。

●武田委員長

恐れるべきは盗掘。Aランクでなくても、サギソウ、トキソウのように盗掘の対象になる種はある。そのため、Aランク全種と指定すると、Bランク種はとっても良いのか、と言われてしまう。

●齊藤委員

盗掘によって減少する恐れのある種をランクに依らず選定すべき、ということか。

●武田委員長

今回は、Aランク種の中で盗掘によって絶滅する恐れのある種を選定すべきである。

●山本委員

先日、新聞で条例に関する大きな記事が載ったが、条例の方向性は間違っていないと思う。アカミミガメを指定外来種に選定することや市民との協働について、もう一度同じ大きさの記事を書いてもらってはどうか。今回の記事による条例への注目は大きい。このタイミングで、条例の良い面についても広報してほしい。

ちなみに、レッドデータAランク種には、レッドデータ選定時から採集禁止の目的が入っていたのか。保全という目的で選定したのであれば、Aランク種全種を一律採集禁止とするのはどうかと思う。

●事務局

希少野生動植物の選定については、各分野の生物の専門家に意見を伺う予定である。対象から外れた種について、採集しても絶滅しないのか、という点は市民に説明できる形で整理する必要があると考えている。

●山本委員

現場で活動する立場としては、採集禁止に対する不安がある。

●事務局

Aランク種を知らないうちに捕獲してしまった子どもたちが条例の規定にかかることはないので、条例の全面施行前までに、条例の内容を誤解のないように市民に示していく予定である。

●齊藤委員

条例の記事に関して、一昨日神戸新聞に抗議をした。神戸新聞の意見として、条例の趣旨は理解しており、フォローもしていきたいが、希少野生動植物の採集に関して許可が必要なように読める、とのことだった。行政用語であるため、そのように読めるかもしれないが、許可や認可は必要ではないと説明した上で、新聞記事の「許可」や「認可」といった言葉が市民に誤解を与える可能性があるとして指摘した。神戸新聞からは、今後条例をフォローする記事も書くと約束してもらった。

「市長の認めるもの」に何が該当するのか、今後具体的に定めていきたい。学術研究、調査のための捕獲、子どもたちの教育のための採集等について規制するつもりはない。事前に届出を出していただく必要もない。商用目的等で大量に捕獲している人がいる場合に、職員が現場へ赴いて、これは市長が認めるものにあたらぬ、と指摘するための手段として、このような表現にしている。法律用語の表現が分かりづらいという指摘は確かにあるため、これからどのように市民へ広報するか、検討していきたい。

●山本委員

保全している立場や、実際に保全のためのデータを提供した昆虫の愛好家等の間で不安が広がっているように思うが、私自身は、今の話を聞いて安心できた。

●安井委員

商用目的の業者や大量に捕獲するマニアだけが問題だと思う。条例でいかにきれいに分けられるように書くか、難しいところだが配慮してほしい。

きせつの生きものさがしガイドを活用した出前授業は、学校や近くの公園で見られる生きものを対象としているが、その多くが外来種である。在来種が多く見られるキーナの森での環境学習等も検討してほしい。

また、アカミミガメだけでなくアメリカザリガニの駆除も進めてほしい。

●事務局

キーナの森については、今後できる限り活用したい。自然観察会は予定しているので、重点推進校へのアプローチも検討したい。

<議題②：平成30年度における生物多様性保全に係る事業の実施予定について>

●安井委員

アライグマ対策をもう少し重視してほしい。また、難しいかもしれないが、アメリカザリガニの対策も検討してほしい。学校の教材にもなっており急な駆除対策は難しいと思うが、アメリカザリガニの水草等生態系への影響は大きい。

また、保全の対象としてイシガメを取り上げてほしい。

ヒアリについて、ヒアリの発生後、ホームセンターでアリの駆除剤がよく売れており、在来のアリが駆除されているのではないかと心配している。在来アリの保全も打ち出してもらいたい。

●山本委員

アルゼンチンアリ対策はないのか。

●事務局

安井委員が指摘されたとおり、在来アリがいる方がヒアリの定着を抑止できることが分かっている。ホームセンターでアリの駆除剤が売れている傾向は好ましくないとい前から指摘されているため、何らかの形で啓発をしたい。

ポートアイランドに生息しているアルゼンチンアリについては、ヒアリ対策の意味も込めて、一部のエリアでアルゼンチンアリを駆除し在来のアリを戻す試みも、事業者と協働で進めている。在来のアリによるヒアリへの抵抗力を高めようとしているところである。

●武田委員長

ヒアリは継続的に監視をしないと、入ってくる可能性は常にある。

●事務局

中国でのヒアリ対策が進んでいない状況なので、数年はモニタリングによる警戒が必要と言われている。

●武田委員長

神戸市単独ではなく、各機関と協力して取り組んでもらいたい。

キーナの森を「生物多様性保全のシンボル拠点」とするという一方で、管理棟を建てる予定もあったはずだが、現在無人になっており、好ましくない状況である。建物を建てて人を入れて、活動できるような設備を作る、という方向で予算をとれないだろうか。いつまでも環境局で生物多様性の情報を集めていても限界がある。キーナの森を生物の情報を集約したり環境教育の拠点とする方が望ましいのではないかと考えている。人がいれば利用もしやすいし、環境教育にも使いやすい。条例を活かすためにも、検討してほしい。

●事務局

環境局として働きかけていきたい。

●武田委員長

環境DNA事業について、ヒダサンショウウオとアカミミガメだけが対象か。他の生物はどうか。

●事務局

プライマーの調達に難しい。希少種については、ヒダサンショウウオなら調達可能と聞いて

ており、また、この種は現地での確認が難しいということなので、希少種についてはヒダサンショウウオを対象とした。結果についても広く発信して、生物多様性の保全につなげていきたい。